
助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2020年5月29日

事業ID:2018486937

事業名:リカバリーカレッジOKAYAMA

団体名:社会福祉法人あすなろ福祉会

代表者名:杉原 綾乃 印

TEL:086-273-9692

事業完了日:2020年3月31日

事業費総額	3, 697, 016円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	1, 307, 016円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	2, 390, 000円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切り捨
助成金返還見込額	0円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容(実績。700文字以内):

1. 運営委員会の運営

- (1)時期:2019年4月13日～2019年12月1日 計10回
- (2)場所:(社福)あすなろ福祉会(岡山市北区)、TKP(岡山市北区)、夢想庵(岡山市東区)
- (3)参加者:84名(精神障害当事者、市民、精神保健福祉専門職、教育関係者など)
- (4)内容:リカバリーカレッジの運営、講座開講に関する検討など

2. リカバリーカレッジに関する講演会

- (1)時期:2019年8月24日 1回
- (2)場所:きらめきプラザ(岡山市北区)
- (3)参加者:59名(精神障害当事者、市民、精神保健福祉専門職、教育関係者等)
- (4)内容:イギリスで実践しているリカバリーカレッジについて学ぶ講演会

3. リカバリーカレッジトレーナー養成研修

- (1)時期:2019年8月25日～8月28日 計4日、24日に経験者交流会実施
- (2)場所:きらめきプラザ(岡山市北区)、経験者交流会はTKP岡山(岡山市北区)
- (3)参加者: 27名(内精神障害者当事者等15名)
- (4)内容: リカバリーカレッジ先進国のイギリスから講師を招き、リカバリーカレッジの運営方法や講座のファシリテーションについて学ぶ

4. リカバリーカレッジの実施

(1)時期:秋期講座、2019年9月14日～2019年12月1日 計24回

冬期講座、2020年1月4日～2020年3月15日 計28回

(冬期講座に関しては2月26日よりコロナの影響で実施できず。計16回)

(2)場所:(社福)あすなろ福祉会、アサノカメラ、表町コモン、ブループラネット

(3)参加者:延361名

(4)内容:リカバリーカレッジの開催

2.事業内容詳細:

別途添付

3.契約時事業目標の達成状況:

【助成契約書記載の目標】

①リカバリーカレッジOKAYAMA運営委員会

- ・リカバリーカレッジ運営委員会の実施 年4回
- ・リカバリーカレッジのカリキュラムを構築する。

②リカバリーカレッジに関する講演会

- ・リカバリーカレッジ先進国のイギリスから講師を招き、リカバリーカレッジの実践についての講演会を年に1回以上開催する。
- ・リカバリーカレッジに関心を持つ人が参加者の60%以上になる(参加者へのアンケートで調査)

③リカバリーカレッジトレーナー養成研修

- ・リカバリーカレッジ先進国のイギリスから講師を招き、リカバリーカレッジの運営方法や講座のファシリテーションについて学ぶ研修を年に1回以上開催する。
- ・日本におけるリカバリーカレッジトレーナー養成研修のマニュアルを作成する
- ・養成研修の参加者が20名以上で半数以上が医療保健福祉専門職以外である

④リカバリーカレッジの実施

- ・2クール行う
- ・合計60セッション以上のプログラムを提供する。
- ・リカバリーカレッジ事務局員を配置する。
- ・参加者の満足度が70%以上(参加者へのアンケートで調査)

【目標の達成状況】

① リカバリーカレッジOKAYAMA運営委員会

- ・リカバリーカレッジ運営委員会を設立し、年10回実施することができた。

・表町商店街に事務局を設置する予定であったが運営費を確保することができなかった。

② リカバリーカレッジに関する講演会

- ・諸外国におけるリカバリーカレッジの実践についての講演会を年に1回開催できた。
- ・自己負担金確保のため団体の内部目標として参加者100名としていたが、実際には59名に留まった。
- ・講演の満足度は、大変満足・やや満足が約90%だった。

③リカバリーカレッジトレーナー養成研修

- ・リカバリーカレッジ先進国のイギリスから講師を招き、リカバリーカレッジの運営方法や講座のファシリテーションについて学ぶ研修を年に1回以上開催することができた。
- ・日本におけるリカバリーカレッジトレーナー養成研修のマニュアルを作成することができた
- ・養成研修の参加者が27名で半数以上の15名が医療保健福祉専門職以外だった

③ リカバリーカレッジの実施

- ・秋、冬の2クール行うことができた
- ・合計36セッションのプログラムを提供したが目標に届かなかった。
- ・運営費を確保できずリカバリーカレッジ事務局員を配置することはできなかった
- ・冬期講座は講師の体調不良、コロナの影響等により予定のセッションを行えずにいたが参加者の満足度は80%であった(参加者へのアンケートで調査)

4.事業実施によって得られた成果:

- ・リカバリーカレッジトレーナー研修を岡山市で初めて開催することができた
- ・リカバリーカレッジに関する認知度を高めることができた
- ・日本国内のリカバリーカレッジ実践者との交流をすることができた。
- ・運営委員会でそれぞれの個性を活かして協働できた
- ・トレーナー研修を行い、マニュアルを作成することができた。
- ・公開講座を開講して一般市民にも関心をもってもらえた

5.成功したこととその要因:

①運営委員会

- ・回数を重ね、時間をかけて話ができた
- ・実行委員会と研修を同日に開催し、日程を調整して行った

②講演会

- ・英訳資料を日本語に翻訳することで参加者に分かりやすく伝えることができた。

③リカバリーカレッジトレーナー養成研修

- ・本場のイギリスより講師を呼んで研修できたことでリカバリーカレッジOKAYAMAの理念などを形にすることができた
- ・ともに学ぶことで意欲が高まった
- ・イギリスのトレーナーと共に全国のリカバリーカレッジ実践者交流会ができて大変盛り上がった。

④リカバリーカレッジ実施

- ・運営委員会で必要なプログラムを話し合うことができ、実施回数を増やすことができた
- ・個別相談会、オープンカレッジを行ったことで希望者がイメージを持つことができた
- ・商店街で開催し、商店主に講師として来てもらうことで商店街ともつながることができた
- ・新聞に取り上げてもらった

6.失敗したこととその要因:

- ①運営委員会開設 参加者が少なかった
- ②リカバリーカレッジに関する講演会の参加者数が達成できなかった(目標100名)
 - ・広報の開始時期が遅かった
- ③リカバリーカレッジトレーナー養成研修
 - ・外国からお招きしているので日程が予定と変更になった(当初5日から4日)
- ④リカバリーカレッジの実施
 - ・カレッジのセッションが目標(60)に届かなかった。
 - ・オープンカレッジから開始までの期間設定が短かった
 - ・秋期と冬期の講座の期間が短く、参加募集時期が遅くなり、12月になってしまった

7.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案:

- ・リカバリーカレッジを全国で理解して実践できることが課題であり、次年度は全国の実践者との交流を行う。

事業成果物:

【助成契約書記載の内容】

- ①講演会チラシ、トレーナー養成研修チラシ 各500部
- ②リカバリーカレッジ OKAYAMA パンフレット 500部×2階
- ③リカバリーカレッジ OKAYAMA ファシリテーター養成研修マニュアル(テキスト)300部
- ④事業報告書

【作成成果物】

- ①講演会チラシ、トレーナー養成研修チラシ作成配布
- ②カレッジ実施のパンフレット 秋期、冬季各 500 部
 - リカバリーカレッジ OKAYAMA 専用ホームページへのアップ済み
- ③リカバリーカレッジ OKAYAMA ファシリテーター養成研修マニュアル作成
 - マニュアルは計画通り作成できた。簡略版データをホームページにアップした。

その他

リカバリーカレッジ OKAYAMA 専用ホームページ、SNS により各事業報告を行った

【成果物がアップロードされているCANPANのURL】